

「やりとり」

校長に赴任して、早いもので1年半が過ぎました。教諭時代とは異なり、管理職となってからは授業で子どもたちと接する機会は減ってしまいました。寂しさはありますが、元来、物事を前向きに捉える私は、「少ないふれあいの時間こそ大切にしよう」と考えるようになりました。

まずは、登校の場面です。よほど用事がない限り、できるだけ玄関で子どもたちを出迎え、あいさつを交わします。小学部の低学年であれば、しゃがんで目線を合わせ、その日の様子を観察します。その後、子どもたちが事務室へあいさつに行く際にも同行し、事務職員とのやりとりと一緒に盛り上げるようにしています。

また、廊下でのすれ違いざまなど、時間が許すときは子どもたちに声をかけ、ちょっとした「いたずら」をして反応を楽しむこともあります。笑って答えてくれる子、不思議そうな顔をする子など反応はさまざまですが、それぞれが「校長先生は何を考えているのかな?」と私の心情を読みながら返答してくれます。このやりとりが実に楽しく、私は大好きでやめられません。こうした冗談やいたずらを通じたやりとりの中に、子どもたちの心の変化が表れているように感じます。その変化をうまくとらえて褒めたり、一緒に笑ったりすることで、温かく楽しい空間が生まれることを願っています。

学校は「楽しい、学びたい」と思える、温かな空間であることが何より大切です。これからも、子どもたちが笑顔になり、「校長先生と話したい、遊びたい」と思ってくれるよう、どんな楽しいやりとりができるかワクワクしながら子どもたちと接していきます。



どんな楽しいことが
あるかな?

